

残暑がなかなか厳しい毎日ですが、子どもたちは元気に過ごしています。ありがとうございます。

デジタル時代の正しい生活様式の作り方

子どもたちへタブレット端末の貸与が始まって、早いところで5年を越えました。互いにデジタル機器を通してやり取りをする子どもたち。時間と空間が短縮され、あたかもそこにいるかのようなコミュニケーションも可能にしています。想像力を凌駕するような生成AIを使ったアプリが、創造性を高めてくれています。自分が思ったように、もしかしたら自分が思う以上に自分らしい表現を可能にしてくれているかもしれません。

デジタル時代の明るい面が、子どもたちを照らしているようです。

ただ、残念ながら明るい面だけでデジタル時代を語れません。お家においても何でもできる（例にもれず、私も買い物はぼちっとしています）このデジタル機器は、思わぬダークサイドをつくり出しています。詐欺だけにとどまらず、SNSグループでのコミュニケーショントラブル、闇バイトなど、これまでは考えられない犯罪とつながってしまう現実。



なぜなのか。

諸説ありますが、デジタル機器の時空を曲げるという特徴が、全能感をもたらし、普通では超えられない倫理の壁を、いともたやすく超えてしまうからでは、と私は思っています。

そして、この問題は大人だけにとどまらない、という大きな課題がある。小学生だろうが、中学生だろうが、もしかしたら就学前の幼児だろうが、ぼちっと押ししてしまうと、そこから先に驚くほど広い世界が広がってしまうのです。

さらに、その広がり先の明るい面だけではなく、ダークサイドがあると気づきにくいのが、子どもたち。子どもたちには、ダークサイドについて絶対的な経験が足りていません。しかも、子どもたちは怖いという経験が少ないので、旺盛な好奇心が勝り、ダークサイドに入り込みやすい。もちろん、これは一般的に言って、です。

ここは、大人の出番です。

もちろん学校でも、情報モラルやリテラシーの学習は行います。ただ、現実的にはどうしてもお家の方のお力が必要です。デジタルは時空を超えるので、簡単に学校を越えていきます。そして、その性格上、闇も好みます。ここが最大の問題点。

だから、何度でも言いたい。ここは、お家の方のお力が必要です。

まずは、約束事がある、ということが大切です。この約束事は、学校から貸与しているタブレット端末に限りません。ありとあらゆるデジタル機器使用に関して、ぜひご家庭での約束事の見直しをお願いしたいと思います。

次に、その約束事を守れているか、継続的な振り返りが大切です。場合によっては、スクリーンタイム（使用する時間を決める権限）や使用アプリの制限も必要な場合があります。使用アプリに関しては、やはり提供元が設定している年齢制限（ちなみにLINEは12歳以上となっていますね）が目安となるのではないのでしょうか。この年齢制限は、やはり子どもの経験不足による想像力に関係していると思います。